

綾の照葉樹林・綾南川周辺散策
「綾の照葉樹林散策」アヤグリーン (2014. 5. 18)



ゴールデンウィーク過ぎなので観光客も車もちょっと少ない時期だが、照葉樹林の緑が黄金色から新緑へと変わる美しい時期だ。天気予報は「曇りところにより雨」と出ていたから少し不安はあったが、雨も降らずいい散策となった。

綾町役場裏に集合後、車6台に分乗してまず「千尋の森（せんぴろのもり）」を目指した。九電が小丸川50万ボルト幹線をつくるために、照葉樹林の一角を伐採し巨大送電鉄塔を建てた場所だ。会員がその時のことや原発との関連など説明。ここは綾の照葉樹林のコアを守るための緩衝地帯として重要な場所だ。照葉樹林の入口にいったばかりの所なので、景観上も好ましくない。しかし、今、鉄塔はそこに建ってしまっている。いつの日か撤去を望む。



そこを終えると、照葉大吊橋（てるはおおつりばし）より少し上流の展望がきく場所へと向かった。最初の写真と二番目の写真は、そこから撮ったものである。「アヤグリーン」とした意味は、この景色を見れば一目瞭然と言えよう。様々な緑色の照葉樹が重なり合って美しい景色をつくっている。一般観光客はほとんど吊り橋までだが、県道沿いからの展望なので、機会があればぜひ足を延ばして欲しい。



さて次は、綾の溪谷だ。美しいヒスイ色の淵である。県道からちびっ子も一緒に溪谷へと下った。思ったよりも長い下りだった。ちびっ子にとっては大冒険のはずである。せせらぎの音が聞こえ、ヒスイ色の淵が木々の間にみえた。会員がつくったポスターでは見ていたが、実際は想像を超えて美しい水の色である。ヒスイ色、美しい深い緑色だ。知る人ぞ知る綾川溪谷の淵である。多分、夏には家族連れ等がゆっくりした時間を楽しんでいるのだろう。そういうことを想像しながら、県道への上り坂は、少し疲れ気味。しかし、疲れた後は、お待ちかねの昼食。

川中キャンプ場を目指した。そこにはもう野草の天ぷらが用意されていた。グッドタイミングである。ヨモギ、クズの新芽、アザミの花の他、セイタカアワダチソウの新芽やシロツメクサの花、スイバの花など身近に見かける野草が摘んであった。天ぷらにすると、これが美味い。写真のとおり、最後は通りかかった他の団体も召し上がるというにぎわいにまでなった。このキャンプ場では、過去に照葉樹林に関するいろんな催し物があった思い出の場所でもある。この日も家族や友人たちと思える人たちがテントを張り、綾の森を楽しんでいた。

野草の天ぷら付きというおまけがついた昼食の後は、本流にかかる吊り橋を渡り、イチイガシなどの大木を目指すこととなった。しかし、この吊り橋、丈夫なのだが結構揺れた。それぞれの足並みが違うためだろう。吊り橋を渡るとまた小難関。綾南川に注ぐ小さな支流が、前日の雨で少し水かさが増えていたのだ。そのため飛び石伝いに簡単に渡れる予定が、少し手間取ってしまった。ちょっと足先を濡らした人も出た。極寒の登山であったら、命とりにもなるところだが、ここは初夏前の綾の森。大丈夫、大事には至らなかった。渡ればすぐにヤマモモの林。よく見れば樹間もそろい、ヤマモモの畑である。葉っぱの先には、もう小さな実を付けていた。そして旧トロッコ道へ。木材を切出すためにずっと以前につくられていた道である。使われなくなってから長い年月が経つため、ところどころ崖崩れを起こしている。道の両側はシイやカシの森が続いている。やがてその道の端に目指す大木が現れた。イチイガシの大木である。幹回りを測ってみることになった。ヒモを胸の高さにまわして、約5m。樹齢400年とも言われるらしいが、そこまではないようだ。そこからトロッコ道をそれて少し登るとすぐにタブノキの大木。こちらはそれ以上の幹回りである。よくぞ切られずに残ったものである。回りに目をやれば、イスの大木もある。目測だが、幹回り1mはありそうだ。樹齢から言えば、こちらもただ者ではないと思う。イチイガシやタブノキ、またイスの木周辺は綾の森のエキスのひとつだろう。ガイドの案内でぜひ訪れて欲しい。

クマタカ観察まで行ないたかったが、予定時間となり欲張らずに日程終了。綾町役場裏までもどり、解散となった。

青木幸雄（宮崎の自然と未来を守る会）